



手作りの温かみが 感じられる家具店

小郡

森重生活用品店

森重雅子さん 剛さん

手作りの温かみが感じられる家具店

都市部から離れ、榎野川（ふしのがわ）沿いの静かな一角にあるオーダーメイド家具店。手仕事を愛する2人が空き家を改装し、2015年に開業した。吹き抜けの天井からはわら細工が吊るされ、手作りの家具が並ぶ。温かみのある空間を見て、訪れる人からは「ジブリの家みたいだ」と評されることもあるのだとか。

使ってくれる人に ジャストフィットする家具を追求

木の優しさを生かした8角形のテーブルや本棚を手掛けるのは、家具職人の剛さん。大事にしているのは依頼者との対話だ。「お客さんの人となりやイメージを知り、それに合わせて木材や色を選んでいく。



店内の様子

できればその人の家に行って、空間を感じ、配置や趣味を理解した上で作りたい」と語る。その考えはただ家具を作るのではなく、使う人のライフスタイルに寄り添いたいというこだわりの現れだ。「相手を知ることには時間をかけ、その人のために作ってあげたいと思うと出来も変わってくる」と思いを語る。



剛さん制作の家具

手仕事は生活の一部

妻の雅子さんは、デザインを担当し、ホームページを作成するなどして剛さんを支えている。店のロゴマークは、青い物を集めて巣を飾る鳥がモチーフで、オーストリアのアオアズマヤドリがそのモデルだ。「手作りの家具で家を飾りたい」という思いが込められたそのロゴは、夫妻の手仕事に対する深い想いを象徴している。

店内では雅子さんのワークショップも開かれ、身近な素材を生まれ変わらせるわら細工や編み物制作が好評。母親から編み物を教わりながら成長し、今もその手仕事を大切にしている雅子さんは「作ることは生活の一部。暮らしの中の手仕事は失われつつあるが、ワークショップをきっかけに手仕事を楽しむ人が増えてほしい」と願う。



手仕事による作品

ロゴマーク



長男の陽太さんの切り絵教室も開かれ、制作した作品を剛さんが手掛けた額縁で飾る親子コラボのワークショップとなっている。

山口市は子育てに良い環境

剛さんは山口市出身。高校生のときに雑誌で海外のインテリア特集を見て、無機質で無骨なインダストリアルな空間に興味を湧いた。「カッコいいな」と思い、当初は空間を生み出す建築に興味を持った。自分だけで完結する仕事でもあり「自分の思いを形にして喜んでもらえる」と大学を卒業後、岐阜県高山市の専門学校で家具づくりを学び、職人の道に進んだ。その学校で雅子さんと出会い、結婚した。その後、山口県徳山市（現周南市）での暮らしを経て現在の場所に。

雅子さんは「山口市は中心部の雰囲気良く図書館や美術館、博物館もあって子育てにとってもいい環境。アクセスが良く、自然があふれるところも魅力」と話す。自分らしく生きる長男の陽太さんの姿からは2人の感性と豊かな教育環境の調和を見た。

手作りの過程を大切に

剛さんは「10代のころ、あこがれた世界に近づいているがまだ途中だ」と言い、今後は、完全に手作業だけで作った家具を販売してみたいとも。機械で一瞬で作れることをあえて手作業にこだわり、制作過程を大切にしたいと話す。「一つ一つの過程を大切にしたい」という思いが伝われば、物を大事にしてくれるのでは」と素朴な語り口から職人氣質をのぞかせた。



飼い猫と遊ぶ森重さん



森重生活用品店外観

ワークショップへの参加は同店ホームページから。出張も受け付ける。

所 山口市小郡上郷3778-1
☎ 083-976-8238



ウェブサイト